

4 今日的な教育課題への対応

| | |
|-------------------|--|
| 家庭や地域社会との連携 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 単元の導入では、「保護者の皆様へ」として単元目標が簡潔に示されており、保護者をはじめ児童の学びを支える全ての人と共有できるよう配慮されている。 ④ P20, 31, 43, 56, 67, 77, 89, 98 など ▶ 単元末の「たのしい まいにちにつなげよう」では、学んだことを家庭で語ったり、日常生活でも活動を継続しようとする児童の姿が掲載されており、生活科の学びが日常生活につながる例が、分かりやすく示されている。 ④ P28, 50, 62, 74, 83, 106 など |
| 防災・安全 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 防災教育の専門家の校閲を受けているほか、別冊「ひろがる せいかつ じてん」では、防災・安全に関する豊富な資料がまとめて示されており、いつでも確認できるよう配慮されている。 ▶ 紙面に付している QR コードをタブレット等で読み取ることで、安全面に関する資料をいつでも確認することができるよう、工夫されている。【QR コード収録動画】交通安全 6 点 |
| 特別支援教育、ユニバーサルデザイン | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 特別支援教育および学習のユニバーサルデザインについて専門家の校閲を受けており、全ての児童が理解しやすいものとなるよう、読みやすさ、分かりやすさの配慮 が行き届いている。 ▶ 読みの能力が十分達していない児童に配慮して、できる限り文節で行が切れることのないよう、文字数や字間が調整されている。 ▶ カラーユニバーサルデザインの専門家の校閲を受けており、色覚の多様性に配慮し、誰もが明確に識別できる配色 が採用されている。 |
| 人権、福祉、国際理解 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ ともに生きる社会を旨とし、人権教育の専門家の校閲を受けている。 ▶ 上下巻を通して、児童の多様な家庭環境に十分配慮 されている。 ▶ バリアフリーの観点 から、ピクトグラムや点字など、多様な人々のために工夫されたものの例が随所に示されている。 |
| 伝統や文化 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 各地域の伝統行事や季節の行事、古くから伝わる遊びなどが豊富に掲載され、児童が身近な伝統や文化に目を向けるきっかけとなるよう、配慮されている。 【古くから伝わる遊び】④ P46-47, 72-73, 92-93, 101 ⑤ P13 など 【伝統行事や季節の行事】④ P55, 87 ⑤ P12, 44-45, 56, 67, 84-85 など |
| SDGs | <ul style="list-style-type: none"> ▶ SDGs に代表される現代的な諸問題について、外来生物との関わり方や 3R、資源を大切にすることなど、低学年でも考えたり取り組んだりできる内容が、無理なく取り上げられている。 ④別冊 P7, 19 ⑤ P55 ⑥別冊 P5, 27 |
| キャリア教育 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 地域で生活したり働いたりしている人々との交流を繰り返し、関わった人々や、その仕事ぶりに対して児童が感じた尊敬や憧れの気持ちが、児童の言葉や作例として豊富に示されている。 ⑥ P62-83 など |
| 生命の尊重 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 上下巻それぞれに飼育・栽培単元が設けられており、活動を積み重ねる中で、生命の尊さが実感できるよう工夫されている。【飼育活動】④ P56-65 ⑤ P34-43 【栽培活動】④ P30-41 ⑤ P24-33 ▶ 動物愛護の観点から、動物から人間への病気の感染だけでなく、人間から動物への感染も防ぐよう注意が促されている。 ④ P61, 63 ⑤ P39 |

5 使用上の配慮と工夫

| | |
|----------|--|
| 表記・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 文章記述は、低学年児童の発達段階を考慮した平易な表現であると同時に、正確さにおいても十分な配慮がなされている。 ▶ 国語科の指導に配慮し、上巻の夏休み以前までは平仮名のみで、夏休み以降は片仮名と、第一学年の配当漢字が振り仮名付きで使用されている。 |
| 用紙・印刷・製本 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 環境に負荷の少ない用紙を用い、エコマーク認定の植物油インキで印刷されている。 ▶ 本冊・別冊の表紙および上巻資料「きせつのはなごころ」は、防水効果があって汚れにくい撥水コーティング加工が施されており、製本は堅牢である。 |

せいかつ たんけんたい 観点別 内容と特色

1 教育基本法・学校教育法との関連

- ▶ 生活科での学習を通して幅広い知識・教養を身につけるとともに、生活科で培った「自立し生活を豊かにしていく力」を、他教科や日常生活で生かす態度を育成できるよう配慮されている。
- ▶ 「知識、技能の基礎」を習得し、問題解決を行う過程で、「思考力、判断力、表現力等の基礎」や「学びに向かう力、人間性等」など、「生きる力」を支える能力を養えるよう配慮されている。

2 学習指導要領との関連

学習指導要領に示されている教科目標が達成できるよう、配慮されているか。

具体的な活動や体験を通した学習が展開できているようになっているか。

- ▶ 全単元において、児童にとって身近で取り組みやすい学習活動や学習対象が取り上げられており、児童が対象と繰り返し関わり、体験活動が充実するよう配慮されている。
- ▶ 全単元において、導入、展開、振り返りで構成されており、それぞれ学習の見通し、体験活動の例、気づきの高まりの例として、児童の自己決定による体験と、主体的な表現活動が具体的に示されている。

身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする展開となっているか。

- ▶ 上下巻を通して、身近な対象と真剣に関わったり、試行錯誤したりするなどしながら、思いや願いを実現しようとする児童の姿が、豊富な写真やイラストで具体的に示されている。
- ▶ 小単元の全ページにおいて、児童自ら考え、学びを深めるための「ヒント」が六角形で囲まれて示され、児童が繰り返し対象と関わったり、試行錯誤して何度も挑戦したりしながら、よりよい生活に向けて思いや願いを実現できるよう工夫されている。

自立し生活を豊かにするための資質・能力を育成できる展開となっているか。

- ▶ 全小単元に、小単元ごとの目標に対応した振り返りの場、「ふりかえろう」のコーナーが設けられ、学習活動を通してどんな気づきがあったか、児童自身が「情意」と「資質・能力」の両面から捉え直すことができ、自ら学習対象についての次への思いや願いを考えられるよう、構成されている。
- ▶ 単元末の振り返りページでは、まずは対話の中で振り返ることで獲得した学びが位置づけられ、次に個人で振り返ることで、自分の成長が実感できる構成となっており、学習上の自立、生活上の自立、精神的な自立に向かう児童の姿が表現されている。

知識及び技能の基礎
(自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けられるようになっているか。)

- ▶ 単元の導入ページは、児童が身近な対象について、自分との関わりで興味・関心を高められるよう、これまでの経験を想起し、活動の見通しがもてる問いかけが位置づけられていたり、身近な学習材の写真がダイナミックに配置されていたりするなどして、構成されている。
- ▶ 日常生活で必要な習慣や技能は、学習活動の流れの中で自然と身につくように位置づけられているほか、別冊「ひろがる せいかつ じてん」にまとめられており、児童が必要に応じて持ち歩いたり、自発的に確認したりしやすい体裁となっている。

思考力、判断力、表現力等の基礎
(身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現できるようになっているか。)

- ▶ 思いや願いを実現する過程において、見付ける、比べる、たとえるなどの学習活動で分析的に考えたり、試す、見通す、工夫するなどの学習活動で創造的に考えたりしている児童の様子が、表情豊かな写真や作例などで豊富に示されている。
【分析的思考】④ P34-35, 44-45, 68, 69, 90-91 など 【創造的思考】④ P70-73 など
- ▶ 気付いたことや考えたこと、楽しかったことなどについて、言葉、絵、動作、劇化などの多様な表現方法を用い、他者と伝え合ったり振り返ったりしている児童の交流活動が、随所に設けられている。 ④ P24-25, 82 ⑤ P20-21, 42, 80-82, 92-94 など

| 観点 | 内容と特色／該当ページ |
|---|---|
| 学びに向かう力、人間性等 (身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度が養えるようになっているか。) | ▶さまざまな価値観で考えたり学びを深めたりしている児童の姿が、ユニークな文章と絵で表現されており、多様な児童の存在を肯定し、児童一人一人が自分なりの思いや願いをもちながらも、協働的に学べるよう配慮されている。④ P23, 27, 37, 45 ⑤ P21, 51, 71, 89 など ▶単元末の振り返りページでは、まず対話の中で活動を振り返り、次に多様な表現活動で自分の気持ちをまとめることによって、自分の成長を実感し、今後も意欲や自信をもってよりよい生活を送ろうとする態度を養うことができるよう工夫されている。④ P28, 41, 50, 62, 74, 83, 94, 106 など |

学習指導要領に示されている「**指導計画の作成と内容の取扱い**」における配慮事項について、対応しているか。

| | |
|------------------------|---|
| 主体的・対話的で深い学びの実現 | ▶学習活動の流れが示されている本編と、別冊資料編「ひろがる せいかつ じてん」の分冊で構成されているため、 <u>低学年児童にとって、本編は学習の流れがすっきりと分かりやすく、資料編は児童の主体的な学びを支えられるよう、多彩で豊富な内容</u> となっている。 ▶全小単元に「ふりかえろう」コーナーが設けられ、内容のまとまりごとに児童自らが「情意面」と「資質・能力の面」から捉え直すことで、自身の学びや変容を自覚できるよう、工夫されている。④ P23, 25, 27, 33, 35, 37, 39 など ▶多様性を大切に自己肯定感を育むことができるよう、伸び伸びと自分らしく学んでいる児童の姿が、ユニークな文章と絵で表現されており、一人一人の学びを温かくサポートできるよう工夫されている。④ P23, 27, 37, 45 ⑤ P21, 51, 71, 89 など |
|------------------------|---|

| | |
|--------------------------|---|
| 2 学年間を見通した学習活動の設定 | ▶児童の発達段階や特性を踏まえ、単元や学年が進むにつれて、空間認識や関わる対象が広がり、学びが深まっていくよう、学習活動が設定されている。 【学校周辺から近隣地域への空間認識の広がり】 ④ P6-28 ⑤ P8-11, 14-22 など 【幼児期の経験を生かした素材遊びから、素材を組み合わせる遊びへ】 ④ P66-74 ⑤ P46-54 など ▶児童の発達段階や特性を踏まえ、単元や学年が進むにつれて、文章のスペースや語彙を増やすなど、体裁や内容に配慮された児童のカード例が掲載されている。 |
|--------------------------|---|

| | |
|----------------------|---|
| 動植物の継続的な飼育・栽培 | ▶児童の発達段階に応じ、対象や関わり方について配慮された飼育活動・栽培活動が、上下巻それぞれに位置づけられている。また、地域性によらず、飼育・栽培をしやすい学習対象が取り上げられている。 【飼育活動】 ④ P56-65 ⑤ P34-43 【栽培活動】 ④ P30-41 ⑤ P24-33 |
|----------------------|---|

| | |
|--|---|
| 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連、スタートカリキュラムの編成 | ▶「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた「いちねんせいが はじまるよ」が設けられており、幼児期の学びや育ちを生かした上で、児童が安心感や自信、期待感をもって学校生活を始めることができるよう、授業の様子や児童の姿が具体的に示されている。④ P6-17 ▶生活科を中心とした合科的・関連的な学習活動が豊富に示され、幼児期における遊びを通した総合的な学びから、他教科等における学習へ円滑に移行できるよう配慮されている。④ P18-19 ▶就学前の幼児との交流活動は、幼保小の円滑な連携に配慮し、児童の思考や活動の流れに沿った具体例が示されている。④ P75, 98-101, 107 |
|--|---|

| | |
|--|--|
| 他教科等との合科的・関連的な指導 (カリキュラム・マネジメントの例) | ▶生活科ならびに各教科等で育てたい資質・能力との関連を考慮し、相互の学習効果が高まるよう、他教科との合科的・関連的な指導のヒントが随所に示されている。 ④ 【図画工作】 P25 【道徳】 P26-27 【国語】 P32 【算数】 P39 【体育】 P44-45 【特別活動】 P100-101 ⑤ 【音楽】 P6 など |
|--|--|

| | |
|------------------------|--|
| 中学年以降の教育への円滑な接続 | ▶総合的な学習の時間における探究のプロセスは、 <u>本書の全単元を貫く導入、展開、振り返りの構成の考え方そのもの</u> であり、児童の思いや願いから活動が始まり、確かな力が身につく学習過程を繰り返すという生活科での学びが、総合的な学習の時間においても発揮できるよう工夫されている。 ▶下巻には、地域に関わる単元やおもちゃ作り単元などが設けられ、生活科の学びを社会科や理科など、中学年以降の学習に有機的に結びつけられる活動が豊富に示されている。 ⑤ P14-22, 46-54 など ▶下巻の巻末には、生活科の学びを振り返り、中学年以降の学びをイメージしながら進級への期待が高まるよう、「2年生の 生活の 学しゅうを ふりかえろう」や巻末詩が掲載されている。 ⑤ P96-100 |
|------------------------|--|

| 観点 | 内容と特色／該当ページ |
|--|--|
| 多様な方法による表現 | ▶発表・対話・絵・文章・観察カード・手紙・ポスター・クイズ・動作化・劇化・絵地図など、児童の発達段階や活動内容に合った多様な表現方法が随所に示されているとともに、別冊「ひろがる せいかつ じてん」では、それぞれについて詳細に解説されており、児童自身で適切な表現方法を選択できるよう配慮されている。 ⑤ 別冊 P8-13 など |
| 気付きを確かなものにしたり、気付いたことを関連付けたりすることができる工夫 | ▶単元末の振り返りページでは、まず対話の中で振り返ることで獲得した学びを言語化し、次に個人で単元全体を振り返り、まとめることで、気付きを自覚したり、関連付けたり、捉え直したりなどしている児童の姿が具体的に示されている。 ④ P28, 41, 50, 62, 74, 83, 94, 106 など |
| 見付ける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫するなどの多様な学習活動 | ▶多様な学習活動は、児童の姿や言葉で随所に掲載されているほか、六角形の枠で囲まれた、学び方の「ヒント」においても適切に提示されており、児童が学習を進める上での手立てとなるよう、工夫されている。 ④ P34, 38, 44, 48, 58, 80, 92, 100 など |
| コンピュータなどの情報機器の活用 | ▶タブレットや電子黒板などを使って、記録する、情報を共有する、交流するなど、生活科での学びの深まりを実現できる活動場面において、ICT 機器の活用例が写真で具体的に分かりやすく示されている。 ④ P23, 24, 28, 35, 41, 50, 60, 68, 74, 78, 82, 94, 102 など ▶ICT 機器の適切な使用方法について、別冊「ひろがる せいかつ じてん」にまとめられているほか、QR コードコンテンツにも収録されている。 ④ 別冊 P9 ⑤ 別冊 P7, 10, 11, 13 【QRコード収録動画】「タブレットなどをつかうときは」3 点 ▶紙面に付している QR コードをタブレット等で読み取ることで、安全面、衛生面に関する習慣や、技能の動画を、いつでも確認することができるよう工夫されている。 【QRコード収録動画】健康・衛生 2 点、交通安全 6 点、道具の使い方 4 点、注意したい生き物 11 点 |
| 多様な人々との関わり | ▶身近な幼児や高齢者、障がいのある人との交流などをいっそう重視し、多様な人々との関わりをきっかけとなるよう、必然性をもって写真やイラストで示されている。 ④ P6-8, 25, 100-101 ⑤ P8-15, 44-45 など |
| 生活上必要な習慣や技能の指導 | ▶日常生活に必要な習慣や技能は、学習活動の流れの中で自然と身につくように位置づけられているほか、上下巻ともに別冊「 <u>ひろがる せいかつ じてん</u> 」にまとめられており、児童が必要に応じて持ち歩いたり、自発的に確認したりしやすい体裁となっている。 ▶これまでの学習や日常生活を振り返り、長期休暇中も生活上必要な習慣や技能の定着が図れるよう、「これまでを おもいだそう これからも つづけよう」が掲載されている。 ④ P52-53, 84-85 |

※QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

3 構成・配列・分量

| | |
|---|--|
| 構成・配列・分量 は、教科目標や内容を踏まえ、適切なものとなっているか。 | ▶学習活動の流れが示されている本編と、別冊資料編「ひろがる せいかつ じてん」の分冊で構成されているため、 <u>低学年児童にとって、本編は学習の流れがすっきりと分かりやすく、資料編は児童の主体的な学びを支えられるよう、多彩で豊富な内容</u> となっている。 ▶単元は季節に沿って無理なく構成・配列されており、 <u>2 学期制・3 学期制のいずれにも対応</u> できるよう配慮されている。 ▶ <u>各学校のカリキュラム・マネジメントに適切</u> できるよう、標準時数を基準にしながら、どの単元でも十分に対象と関わる活動が展開できる配当時間を設定した年間指導計画が設定されている。 |
|---|--|